

Abstract

血友病新生児における頭蓋内出血発症率とそのアウトカム：Nationwide Inpatient Sample データベースの分析

The incidence and outcome of intracranial haemorrhage in newborns with haemophilia: analysis of the Nationwide Inpatient Sample database

M. D. Tarantino, S. L. Gupta and R. M. Brusky

血友病新生児における頭蓋内出血 (ICH) の発症率は、依然として不確かである。後方視的研究では約3%と推定されている。今回我々は、より正確な発症率を検証するため、米国最大規模の入院患者データベース (Nationwide Inpatient Sample ; NIS) を使用して分析した。国際疾病分類第9版 (ICD-9) に基づいて脳室内出血 (IVH), クモ膜下出血 (SAH), 硬膜下出血 (SDH) または脳実質内出血 (IPH) を伴う血友病 (A, B または C*) または von Willebrand 病 (VWD) のコードで検索した。1988 ~ 2001 年にかけて 9.2×10^7 例の入院が見いだされ、うち 11% (1×10^7 例) が新生児であった。このうちの 0.00527% (580 例) が血友病または VWD と診断され、うち 20 例 (3.4%) で ICH が発症していた。血友病でない新生児における ICH の発症率は 0.11% であった ($p <$

0.0001)。吸引分娩を必要とせずに出産し、敗血症や呼吸困難症候群 (RDS), 先天性心疾患 (CDH) の合併のない正期産血友病新生児の ICH 発症率は 1.9% であった。正期産血友病 C* 新生児 1 例の死亡 (出生日当日) が認められた。ICH を発症した血友病新生児の平均入院日数は 28 日であった [中央値 28 日 (6 ~ 143 日)]。一方、これらの新生児のケアに対する病院の平均請求額は 102,072 ドルであった [中央値 67,551 ドル (9,624 ~ 467,132 ドル)]。これらのデータは、これまでに報告されている血友病新生児の ICH 発症率をさらに裏づけるものであり、出生時における治療戦略を立てるうえで参考になると考えられる。分娩時合併症のない正期産新生児では ICH のリスクはさらに低いと考えられる。

Table 2. Distribution of ICH in 20 haemophilic neonates by diagnosis and co-morbid conditions.

Diagnosis	IVH	SDH	SAH	IPH	Multi	Pre	RDS	Sepsis	CHD
Haemo A	5	5	3	1	-	2	3	3	2
Haemo B	1	1	-	-	1	1	1	1	-
Haemo C	1	-	-	-	-	1	1	1	-
VWD	2	-	-	-	-	1	-	1	1

Haemo, haemophilia; VWD, von Willebrand's disease; IVH, intraventricular haemorrhage; SDH, subdural haemorrhage; SAH, subarachnoid haemorrhage; IPH, intraparenchymal haemorrhage; multi, multiple ICH sites; Pre, prematurity; RDS, respiratory distress syndrome; CHD, congenital heart disease.

* 監修者註：血友病 C は先天性第 XI 因子欠乏症のこと、現在の用語は使用しないことが多い。